

## 2024年のベトナム自動車産業

2024年、ASEAN 主要国の自動車販売数は、インドネシア 86.5万台（前年比-13.9%）、マレーシア 81.6万台（+2.1%）、タイ 57.2万台（-26.2%）、ベトナム 49.4万台（+22.0%）、フィリピン 47.5万台（+7.6%）でした。インドネシアやタイの大幅な減少とは対照的に、ベトナムの自動車産業は急速な成長を遂げ、国内販売台数は ASEAN 域内で最も高い成長率を記録しました。背景には中間層の拡大、都市部を中心とした自家用車志向の高まり、そして金融商品の多様化による購入環境の改善があります。こうした市場の成長は、これまで後発と見なされてきたベトナムの自動車産業にとって大きな追い風となっています。

特に、ベトナムの EV(電気自動車)市場は活況を呈しています。なかでも注目を集めているのが、EV に特化した地場メーカー「VinFast(ビンファスト)」の躍進です。2021年にEV販売を開始したばかりの VinFast ですが、2024年には年間 8.7万台を販売し、これまで国内市場のシェア上位を占めていたヒュンダイやトヨタを抜き、全メーカー中トップの販売台数を記録しました(VinFast 以外の主要メーカーの製品は内燃機関(ICE)車)。同社は国内に専用の充電ステーション網を構築するとともに、米国・欧州市場への輸出やインド、インドネシアでの工場建設など、世界市場での存在感を高めています。政府も EV 普及に積極的で、登録税の免除や充電インフラ企業への投資奨励など、後押しとなる政策を打ち出しています。正式な調査資料はありませんが、現時点でのベトナム国内での EV 販売台数は VinFast を筆頭に約 9万台、全体の 18%程度と考えられます。複数の調査機関は、2025年のベトナムの EV 販売台数は 15万~18万台(市場全体の 30~35%)となり、そのうち VinFast のシェアが 7割程度と予測しています。現時点で ICE 車が約 8割を占めるベトナムの自動車市場で、今後、EV がどれだけのシェアを獲得していくか、注目を集めています。

生産面では、内燃機関(ICE)車と EV で状況が大きく異なります。まず ICE 車に関しては、自立した供給体制の構築が依然として大きな課題です。2024年の国内販売の 3分の1以上が輸入車で占められており、特にタイからの輸入が多く、国内工場の生産能力は限られています。例えば、トヨタのベトナム工場は年産わずか 4.7万台で、同社のタイ工場(76万台)との規模差は明白です。部品の現地調達率は約 20%にとどまり、裾野産業も成熟しておらず、サプライヤー数や技術水準は他国に大きく後れを取っています。

その一方で EV は、前述の VinFast の躍進に加えて、外資系メーカーの進出が相次いでいます。中国系の存在感は年々増しており、BYD、Geely、Chery、Neta など十数社がすでにベトナム市場に参入し、一部は現地での工場建設も進めています。彼らは価格競争力と技術力を武器にシェア拡大を図っており、今後 VinFast を含めたメーカー間の競争は一層激化することが予想されます。

>>> 「米国の相互関税措置への対応②」の記事につづきます(次ページ)

## 米国の相互関税措置への対応②

米国の相互関税措置を受けて、ベトナムは米国との二国間直接交渉を開始しました。第1回の閣僚級会議は、5月16日、韓国で開催された第31回APEC貿易担当大臣会合後に行われ、ベトナム政府交渉団の团长であるジエン商工相とジェイミソン・グリア米国通商代表部が出席。直後の5月19日～22日には、米国のワシントンD.C.で第2回目の交渉が行われました。交渉では、米越の二国間貿易協定の締結を目指して、原則、アプローチ、内容の方向性、交渉計画などが議論されています。次回の交渉会議は6月上旬の予定です。

大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク

株式会社 NC ネットワーク (ベトナム: NC Network Vietnam JSC.)

日本事務所：東京都台東区東上野1丁目14番5号 ユーエムビル8階

ベトナム事務所：48, No.5 Street, Him Lam, Tan Hung Ward, District 7, Ho Chi Minh, VIET NAM